

研究主題

キャリア教育に関する研究

—児童・生徒の勤労観・職業観をはぐくむための校内研修資料集の開発・活用—

目次

| | |
|----------------------------------|----|
| I 研究の背景とねらい | |
| 1 キャリア教育が求められる背景 | 4 |
| 2 キャリア教育推進のための国や東京都の動き | 4 |
| 3 研究のねらい | 5 |
| II 基礎研究 | |
| 1 キャリア教育の概念 | 5 |
| 2 キャリア教育の在り方 | 6 |
| III 学校におけるキャリア教育の実態調査 | |
| 1 調査概要 | 9 |
| 2 調査結果 | 9 |
| 3 調査に関する考察 | 12 |
| IV 校内研修資料集「キャリア教育推進ショートプログラム」の開発 | |
| 1 キャリア教育に関する校内研修に求められる配慮事項 | 13 |
| 2 校内研修資料集「キャリア教育推進ショートプログラム」の開発 | 13 |
| V 研究の成果と今後の課題 | |
| 1 研究の成果 | 16 |
| 2 今後の課題 | 16 |
| 《参考・引用資料》 | 17 |
| 《校内研修資料集「キャリア教育推進ショートプログラム」》 | 18 |

＜研究の成果と活用＞

1 都内公立学校におけるキャリア教育の実施状況に関する実態の把握

○都内公立学校におけるキャリア教育の実施状況に関する実態調査を行い、小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校におけるキャリア教育の実施状況を明らかにした。

2 校内研修資料集「キャリア教育推進ショートプログラム」の開発

○キャリア教育の基本的な考え方や具体的な実践方法をまとめた校内研修資料集を開発したことにより、キャリア教育に関する校内研修が充実し、教員一人一人のキャリア教育に関する理解が深まると同時に、キャリア教育の必要性について教員全体に共通理解が図られ、組織的、計画的なキャリア教育が充実し、推進される。

○校内研修資料集は、キャリア教育の基本的な考え方や具体的な実践方法を理解するための複数の研修シートから構成されているので、学校の状況に応じて必要な研修テーマを選択することができ、学校それぞれのニーズに応じた校内研修が実施できる。

○校内研修資料集に研修の進め方や解説をまとめた手引き・解説のページを各研修シートごとに作成し、校内研修の例など、本校内研修資料集の活用の仕方を示したことで研修担当者が容易に校内研修を企画・運営することができ、キャリア教育に関する校内研修が充実する。

I 研究の背景とねらい

1 キャリア教育が求められる背景

(1) 学校から社会への移行をめぐる現状

今日、産業や経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化などを背景に、若者の雇用をめぐる環境は大きく変化し、若者の非正規雇用者や進学も就職もしていない者や就職後の早期離職者が増加している。

高等学校段階では平成2年3月卒業生より平成15年3月卒業生の方が、進学も就職もしていない者の割合が5.1ポイント、卒業後就職したが3年以内に離職した者の割合が4.2ポイント増加した。

また、大学においては、平成2年3月卒業生より平成15年3月卒業生の方が、進学も就職もしていない者の割合が20.6ポイント、卒業後就職したが3年以内に離職した者の割合が9.2ポイント増加した。(図1、2参照)

さらに、平成9年に比べ平成16年は若者のいわゆるフリーターが214万人、いわゆるニート(若年無業者)が64万人となり、いずれも増加している。

(図3参照)

高水準で推移する就職後の早期離職者やフリーター、ニートの増加など、学校から職業への移行にかかる課題は深刻である。

(2) 若者自身の勤労観・職業観に関する指摘

平成14年に文部科学省が立ち上げた「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」は平成16年1月にキャリア教育の推進に関する方策を示した「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」をまとめ、その中で、若者の働くことへの意欲・関心・目的意識・責任感など勤労観・職業観の未熟さをはじめ、コミュニケーション能力や対人関係能力、基本的なマナーなど、職業人としての基礎的な能力・態度の低下を指摘している。

(3) キャリア教育の必要性

産業・経済社会の構造的な変化が進む今日、学校から社会・職業への移行に関する課題を解決し、子供たちが社会の変化や社会で直面する様々な問題に対応し、望ましい勤労観・職業観を身に付け、社会人・職業人として自立するためには、若者の意識や資質の向上を図る必要がある。このことからキャリア教育が果たす役割に期待が寄せられている。

2 キャリア教育推進のための国や東京都の動き

「1 キャリア教育が求められる背景」で述べたように、学校から社会への移行をめぐる現状や若者自身の勤労観・職業観に関して課題がみられる中、国や東京都はこのような課題を解決するための方向性を様々な答申等の中で示し、様々な施策を展開している。

(1) 国の動き

- 初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)(平成11年12月 中央教育審議会)
- 若者自立・挑戦プラン(平成15年6月 文部科学省 厚生労働省 経済産業省 内閣府)
- キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書(平成16年1月 文部科学省)

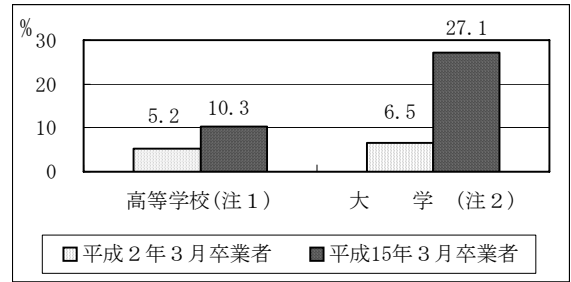


図1 進学も就職もしていない者の割合

(注1:外国の高等学校・大学等への入学者を含む)
(注2:研究生として学校に残っている者、専修学校・各種学校・外国の学校・職業能力開発施設等への入学者を含む)
(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省より)

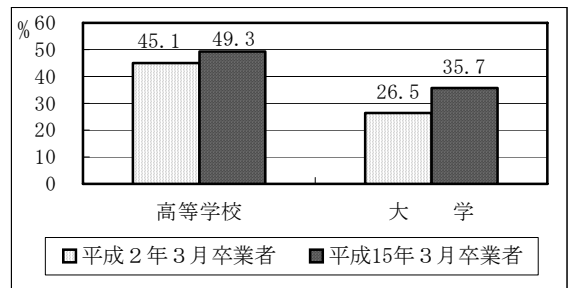


図2 新規学卒就職者の在職3年以内の離職率

(新規学卒者の就職離職状況調査 平成17年 厚生労働省より)

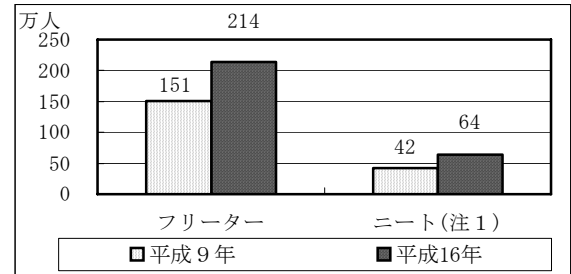


図3 フリーター数・ニート数の推移

(注1:ニートとは15歳から34歳の家事も通学もしていない者)
(平成18年版労働経済の分析 平成18年 厚生労働省より)

○若者の自立・挑戦のためのアクションプラン

(平成 16 年 12 月、平成 18 年 1 月〈改訂〉 文部科学省 厚生労働省 経済産業省 内閣府)

(2) 東京都の動き

○都立高校改革推進計画・新たな実施計画(平成 14 年 10 月)

○東京都教育ビジョン提言 21「学校全体で取り組む計画的なキャリア教育」(平成 16 年 4 月)

○東京都特別支援教育推進計画(平成 16 年 11 月)

○東京都教育委員会の基本方針に基づく平成 18 年度の主要施策

・中学生の職場体験

・キャリア教育の推進事業

(都立高等学校へのキャリアアドバイザー派遣事業、インターンシップ応援事業等)

3 研究のねらい

児童・生徒が社会人・職業人として自立していくためには、小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校において、それぞれの校種の特徴及び児童・生徒の発達段階に応じた望ましい勤労観・職業観を育成するキャリア教育の推進が大切である。

学校においてキャリア教育を推進するためには、第一に学校の実態に応じたキャリア教育が組織的・計画的に実施されることが必要であると考えた。第二にそれを担う教員一人一人がキャリア教育に関する理解を深め、教員全体がその必要性に対する共通認識をもつことが欠かせないと考えた。

そこで、研究のねらいを以下のとおりとした。

教員がキャリア教育に関する理解を深め、児童・生徒の発達段階に応じた組織的・計画的なキャリア教育の推進に資する校内研修資料集を開発し、その活用の在り方を示す。

II 基礎研究

1 キャリア教育の概念

キャリア教育は、アメリカにおいて 1970 年代に始まり、社会の変化等に対応するため推進され、日本の学校における進路指導の充実・改善にも影響を与えてきた。

平成 11 年 12 月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の中で、文部科学行政関連の審議会報告等として初めてキャリア教育という言葉が用いられた。現在、前述した現状や課題を背景にキャリア教育の推進が学校に求められ、中学生による職場体験や高校生のインターンシップなどが多くの学校で実施されている。

文部科学省の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」に示されているように、キャリア教育は、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付け、それを自己の現在及び将来の選択や生き方に生かす力を児童・生徒にはぐくむことを目指している。このようなキャリア教育を行うためには、学校におけるすべての教育活動において、学習の成果を生きることや働くこととの関連において統合させ、発達段階に応じて一人一人の発達を支援するという視点に立って学校教育の在り方を改善することが必要である。しかし、キャリア教育を進路指導や職場体験活動のみで実施している学校が多い。これは、キャリア教育の意味付けや受け止め方が多様であることが一因として考えられる。

そこで、研究を進めるにあたり、研究の基礎となるキャリア教育の定義やねらい等を明確にするために、平成 16 年 1 月に文部科学省より示された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」及び東京都教育庁の「望ましい勤労観・職業観の育成」などの報告書等や先行研究の分析、協議委員会における検討を通してキャリア教育の概念を次のように考えた。

(1) キャリア教育の定義

キャリア教育とは、望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる教育である。

また、児童・生徒一人一人の進路選択に関する資質や能力の発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリア（生涯にわたって遂行する立場や役割）を形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育である。（望ましい勤労観・職業観の育成 平成16年3月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課より）

(2) キャリア教育のねらい

キャリア教育のねらいは、児童・生徒に社会人・職業人として自立できる意欲・能力・態度をはぐくむために、中学校、高等学校においてのみではなく、小学校段階から12年間にわたり、小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校それぞれの校種の特徴及び児童・生徒の発達段階に応じて、計画的・系統的かつ組織的に望ましい勤労観・職業観を育成することである。

2 キャリア教育の在り方

研究を進めるにあたり、学校においてキャリア教育を実施するための課題を把握するとともに、若者の就労にかかわる課題と必要な支援を把握し、学校におけるキャリア教育の在り方等を明確にする必要があると考えた。そのために、キャリア教育の実践校における授業の参観や就労支援機関による講演を以下のように行った。

(1) 学校におけるキャリア教育実施上の課題の把握

キャリア教育を学校で行っていく上での課題を把握するために、都内公立学校2校のキャリア教育に関連した授業を参観した。

① A小学校

- 参観日 平成18年6月23日
- 内容 キャリア教育に関する研究発表会における公開授業の参観
- 参観授業 国語科、算数科、理科、体育科、音楽科、総合的な学習の時間
- 授業の特徴
 - ・授業の目標 各教科の目標に加え、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力の育成を図ること
 - ・授業内容 すべての授業において、4能力の育成を図るための学習活動がなされていた。
- 課題

1単位時間の授業の中で4能力すべてを育成しようとする中で、教科の学習目標とかけ離れてしまう学習活動が見られた。教科の目標を達成する授業展開や児童の実態に応じて育成する能力を焦点化することが必要である。

② B高等学校

- 参観日 平成18年6月26日
- 内容 授業参観及び授業者からの聴き取り
- 参観授業 1学年 学校設定教科・科目「キャリアガイダンス」
- 授業者 進路指導主幹及び担任教諭
- 「キャリアガイダンス」の年間における指導内容
 - ・自己肯定感をもたせ、自己理解を深めさせること
 - ・コミュニケーション能力を向上させること
 - ・職業観をもたせること
 - ・現実的な進路を選択する力を育てること
 - ・ライフプランを設計させること
- 「キャリアガイダンス」の授業による成果
 - ・生徒の自己理解が深まり、進路指導に対する意欲が高まった。
 - ・進路指導に対する教員の意識が高まり、進路指導が組織的に行われるようになった。
 - ・生徒の学校生活に対する目的意識が高まり、中途退学者が減少した。
- 「キャリアガイダンス」の授業を進めるにあたっての課題
 - ・教員の共通理解を図ることが難しい。
 - ・教材開発が容易ではない。
 - ・子供に望ましい勤労観・職業観を身に付けさせることに対する保護者の関心が少ない。

(2) 就労に必要な資質・能力を育成するために必要な支援の把握

若者の就労にかかわる課題を解決し、社会人・職業人として自立できる資質・能力を育成するにはどのような支援が必要であるかを明らかにするために、東京都が設立した就労支援機関である「東京しごとセンター」が若者の雇用や就業状況の改善と多様な就業ニーズに応えるために実施している若者への就労支援等について把握した。

「東京しごとセンター」職員による講演の内容は以下のとおりである。

- 講演日 平成 18 年 7 月 26 日
- 講師 財団法人東京しごと財団東京しごとセンター職員
- 主な講演の内容
 - ① 「東京しごとセンター」の利用対象者
 - ・ 29 歳以下の未就労者
 - ② 利用者の就労にかかわる課題
 - ・ 人間関係を築くことが苦手である。
 - ・ 自己を他者に理解してもらうことが苦手である。
 - ・ 仕事、職業、働くことに関する理解が低く、知識が乏しい。
 - ・ 就職後、早期離職する割合が高い。
 - ③ 主な就労支援
 - ・ 利用者一人一人の状況を詳細に把握し、個々に応じた支援を行う。
 - ・ コミュニケーション能力を高める。
 - ・ 働くことの意味を考えさせる。
 - ・ 自己分析を通して、自己理解を深めさせる。
 - ・ 仕事・働き方への理解を深めさせる。
 - ・ 情報の活用の仕方を習得させる。
 - ・ 職場でのマナーを身に付けさせる。
 - ・ キャリアデザインを考えさせる。
 - ・ 求人情報の集め方、応募書類の書き方、面接の仕方などの就職するためのテクニックを身に付けさせる。
 - ・ 就職した職場に定着するための力を身に付けさせる。

(3) 学校におけるキャリア教育の内容等

キャリア教育の実践校における授業参観や就労支援機関による講演を通して、学校におけるキャリア教育の在り方等を以下のように考えた。

① キャリア教育を通して育てる能力

児童・生徒が社会人・職業人として自立するためには、以下の資質・能力を身に付けることが大切である。

- ・ コミュニケーション能力
- ・ 人間関係を構築する力
- ・ 働くことに対する意欲・関心・目的意識・責任感
- ・ 自己理解
- ・ 人生全体における生き方を考える姿勢

上記の資質・能力を身に付けさせるために、学校はキャリア教育の指導を通して次の 4 能力を育成することが大切である。この 4 能力の内容は表 1 に示す。

| | |
|------------|----------|
| ・ 人間関係形成能力 | ・ 情報活用能力 |
| ・ 将来設計能力 | ・ 意思決定能力 |

また、この 4 能力の育成は学校における全教育活動を通じて行うことが必要である。

表1 キャリア教育を通して育てる4能力

| 能力 | 内容 |
|----------|---|
| 人間関係形成能力 | 他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。 |
| 情報活用能力 | 学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。 |
| 将来設計能力 | 夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。 |
| 意思決定能力 | 自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。 |

(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省より)

② キャリア教育を進めるための観点

学校におけるキャリア教育は、計画的、系統的かつ組織的に実施されなくてはならない。そのための観点を以下のように考えた。

- ・キャリア教育の進め方に関する教員の共通理解
- ・児童・生徒の実態に応じた勤労観・職業観をはぐくむための学習活動プログラムの開発
- ・各学校におけるキャリア教育の計画の立案と教育課程への位置付け
- ・小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校間及び学校と家庭・地域との連携によるキャリア教育の推進体制の確立

③ キャリア教育と関連を図った授業を実施するための留意点

キャリア教育と関連を図った授業を実施するための留意点を以下のように考えた。

- ・特別活動や総合的な学習の時間における進路指導や職場体験活動等だけではなく、国語、算数・数学、道徳などの全教科・領域も含めた学校における全教育活動においてキャリア教育を通して育成する4能力との関連を図ること
- ・授業を行うときは、教科自体の学習目標に沿った授業を展開する中で4能力を育成するための指導を行うこと
- ・授業ごとに、授業を通して育成する4能力の視点を明確にし、その能力を育成するための教材や指導方法・内容等の工夫を行うこと

(4) 学校におけるキャリア教育の具体的な進め方

キャリア教育を各学校で行うための具体的な進め方を以下のように考えた。

① 小学校から高等学校までの12年間のすべての教育活動において、児童・生徒に望ましい勤労観・職業観をはぐくむために計画的、系統的かつ組織的にキャリア教育を行う。

そのための具体的な進め方は以下のとおりである。

○計画的、系統的かつ組織的な実施

- ・小学校・中学校・高等学校の12年間で継続的・系統的に4能力を育成する。
- ・キャリア教育を通して身に付けさせたい4能力の育成目標を児童・生徒の実態に応じて立案する。
- ・4能力の育成目標に基づき、全教科・領域を通じたキャリア教育の全体計画を作成し、教科間、学年間の連携を図りながら計画的に授業を行う。

○4能力をはぐくむための授業の実施

- ・各教科の目標と内容を踏まえた授業の中で、4能力を育成する。
- ・授業を通して育成する能力を明確にし、それをはぐくむための手立てを工夫する。
- ・自己理解を深めるために、児童・生徒が自己の学習を振り返る活動を取り入れる。

② 児童・生徒の発達段階に応じた支援を行い、児童・生徒が自分のよい点や課題を認識し、目標

に対して努力するよう、自己理解を深め、自己肯定感をもたせる。

そのための具体的な進め方は以下のとおりである。

- ・児童・生徒のキャリア発達の程度を把握し、4能力の育成目標を立案して、児童・生徒一人一人に応じた適切な支援を行う。
- ・児童・生徒自身に自己のキャリア発達の程度を認識させ、自己理解を深めさせるとともに自己の課題を見付け、その解決のために努力する姿勢を身に付けさせる。
- ・自己肯定感をはぐくむ言葉かけやアドバイスに努める。

③ 学校・家庭・地域がそれぞれの役割を理解し、その役割を果たすとともに、それぞれが連携して、望ましい勤労観・職業観の育成に取り組む。

そのための具体的な進め方は以下のとおりである。

○学校・家庭・地域の役割

- ・学校は、教育活動を通して、勤労観・職業観の育成を図るとともに、家庭や地域にキャリア教育をともに行う必要性を伝え、協力を依頼するという連携の発信者という役割を果たす。
- ・家庭は、子供の成長・発達を支える重要な場であり、勤労観・職業観を育成する場である。そのためにつけや親子の会話を大切に、保護者の働く姿をみせる。
- ・地域は、仕事や職業に関する意欲・関心をもたせ、勤労の意義を伝える。

○学校が発信者となって進める家庭・地域との連携

- ・学校は、日頃から学校の教育活動に関する情報発信などを家庭・地域に対して行うと同時に、積極的に地域の行事等に参加し、信頼関係の構築に努める。
- ・学校行事への参加や職場体験活動の受入れ等の教育活動への協力を依頼する。
- ・連携活動の際には、計画段階から連携先と連絡・相談を密に行い、一緒に行うという姿勢を大切にする。

Ⅲ 学校におけるキャリア教育の実態調査

校内研修資料集は、学校の実態に応じたものであることが必要である。そこで都内公立学校におけるキャリア教育の取り組み状況に関する実態調査を行った。

1 調査概要

- 調査目的 都内公立学校におけるキャリア教育の実施状況に関する実態を把握すること
- 調査対象 都内公立小学校 102校、中学校 56校、高等学校 36校、盲・ろう・養護学校（高等部）22校 計 216校（無作為抽出）（回収率 100%）
- 調査方法 質問紙によるアンケート調査
- 調査期間 平成 18年 7月 28日から 8月 18日まで
- 質問項目への配慮事項
 - ・文部科学省のキャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書に示されているキャリア教育推進のための方策に基づくこと

2 調査結果

(1) 小学校

最も多かった回答は、「児童が自己の成長を実感できる指導を行っている（87.3%）」、続いて「学校経営方針に勤労観・職業観の育成を取り入れている（70.6%）」「各教科、領域の指導計画に勤労観・職業観の育成を位置付けている（66.7%）」であった。

一方、少なかった回答としては、下位から「キャリア教育推進のための校内研修を行っている（5.9%）」「学年間で系統的な勤労観・職業観の育成の指導計画を作成している（9.8%）」「キャリア教育の全体計画を作成している（10.8%）」「連携活動の際に連携先と一緒に指導計画を作成している（12.7%）」「キャリア教育を担当する分掌組織がある（13.7%）」などであった。

(2) 中学校

すべての学校で「勤労に関する体験活動やボランティア活動を行っている（100.0%）」という回答

を得た。続いて多かったのは「学校経営方針に勤労観・職業観の育成を取り入れている（83.9%）」
「各教科、領域の指導計画に勤労観・職業観の育成を位置付けている（83.9%）」であった。

一方、少なかった回答としては、下位から「連携活動の際に連携先と一緒に指導計画を作成している（5.4%）」
「キャリア教育推進のための校内研修を行っている（12.5%）」
「キャリア教育推進者育成のための校外研修に参加している教員がいる（23.2%）」
「勤労観・職業観の育成に関して異校種の学校との接続を意識した取り組みを行っている（25.0%）」
「キャリア教育の全体計画を作成している（26.8%）」などであった。

(3) 高等学校

すべての学校で「キャリア教育の全体計画を作成している（100.0%）」
「生徒の進路や将来に関する意識や希望を把握している（100.0%）」という回答を得た。続いて多かったのは「勤労観・職業観を育成するための工夫をした教材、単元がある（89.2%）」
「学校経営方針に勤労観・職業観の育成を取り入れている（86.5%）」などであった。

一方、少なかった回答としては、下位から「連携活動の後に連携先と評価を行い、成果や課題を共有している（27.0%）」
「キャリア教育推進のための校内研修を行っている（27.0%）」
「連携活動の際に連携先と一緒に指導計画を作成している（32.4%）」などであった。

(4) 盲・ろう・養護学校

すべての学校で「勤労に関する体験活動やボランティア活動を行っている（100.0%）」という回答を得た。続いて多かったのは「生徒の進路や将来に関する意識や希望を把握している（95.5%）」
「勤労観・職業観を育成するための工夫をした教材、単元がある（95.5%）」
「学校経営方針に勤労観・職業観の育成を取り入れている（90.9%）」
「生徒が自己の成長を実感できる指導を行っている（81.8%）」
「勤労観・職業観の育成のために個に応じた指導を行っている（81.8%）」などであった。

一方、半数は越えているものの他の取り組みに比べて少なかった回答は、下位から「キャリア教育の全体計画を作成している（54.5%）」
「連携活動の際に連携先と一緒に指導計画を作成している（59.1%）」
「キャリア教育推進のための校内研修を行っている（59.1%）」などであった。

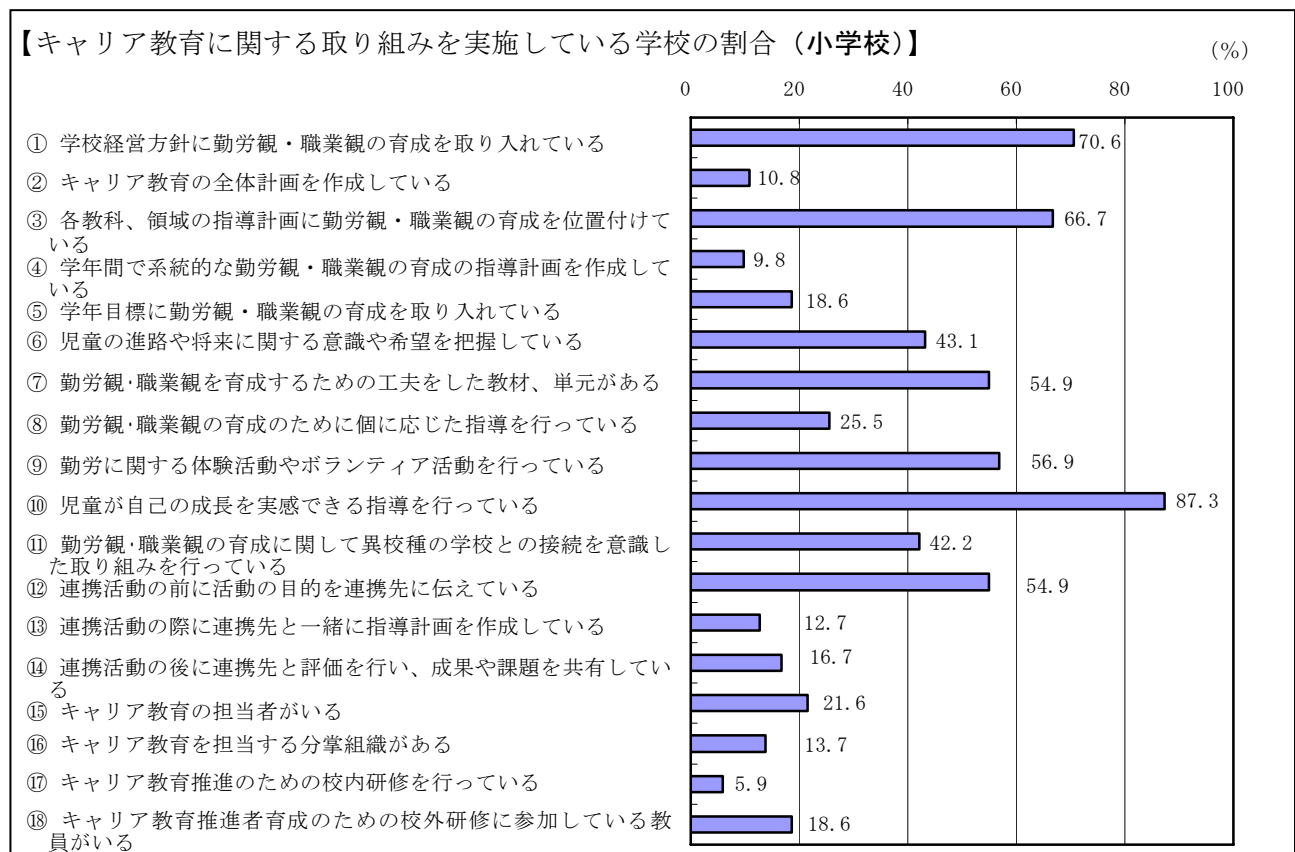


図4 キャリア教育に関する取り組みを実施している学校の割合（小学校）

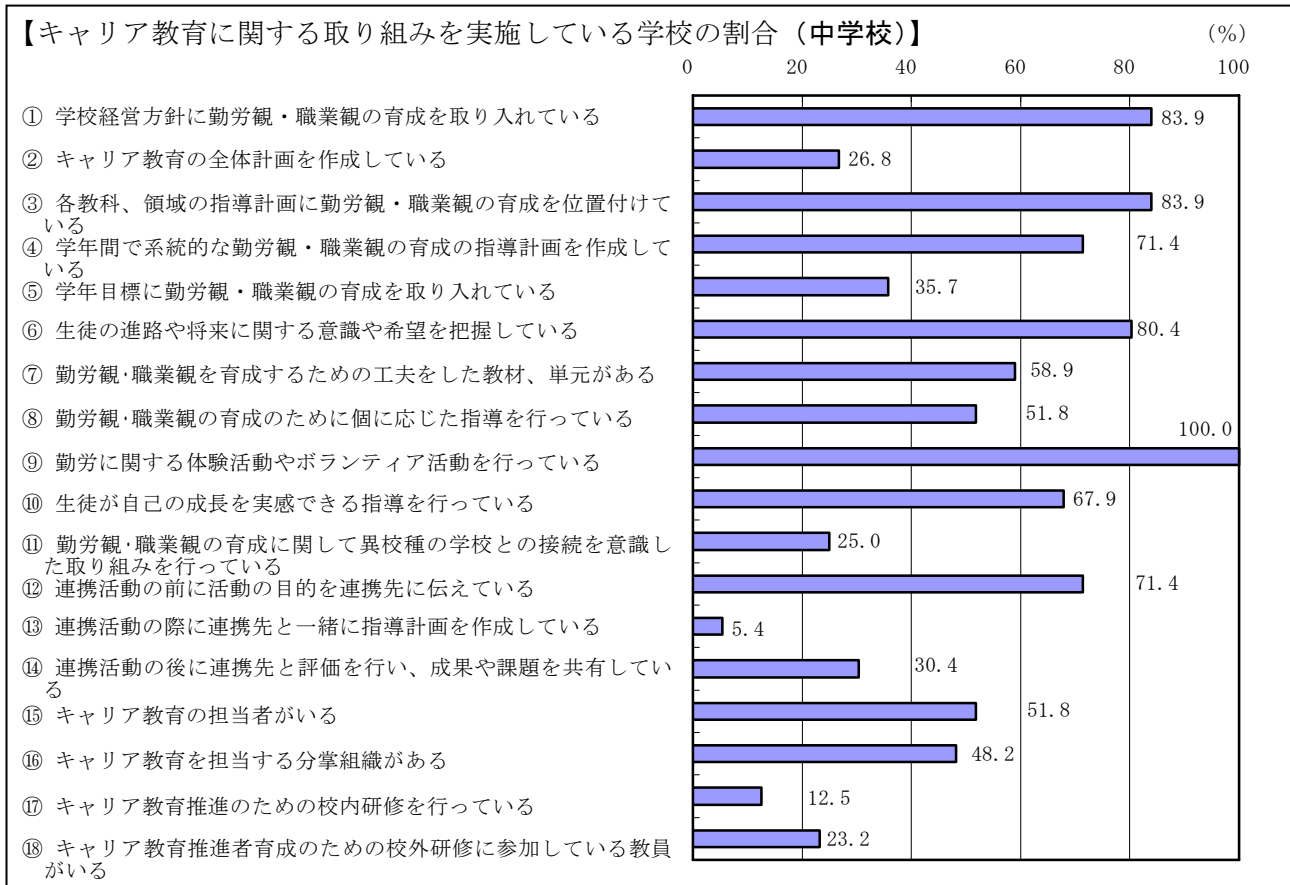


図5 キャリア教育に関する取り組みを実施している学校の割合（中学校）

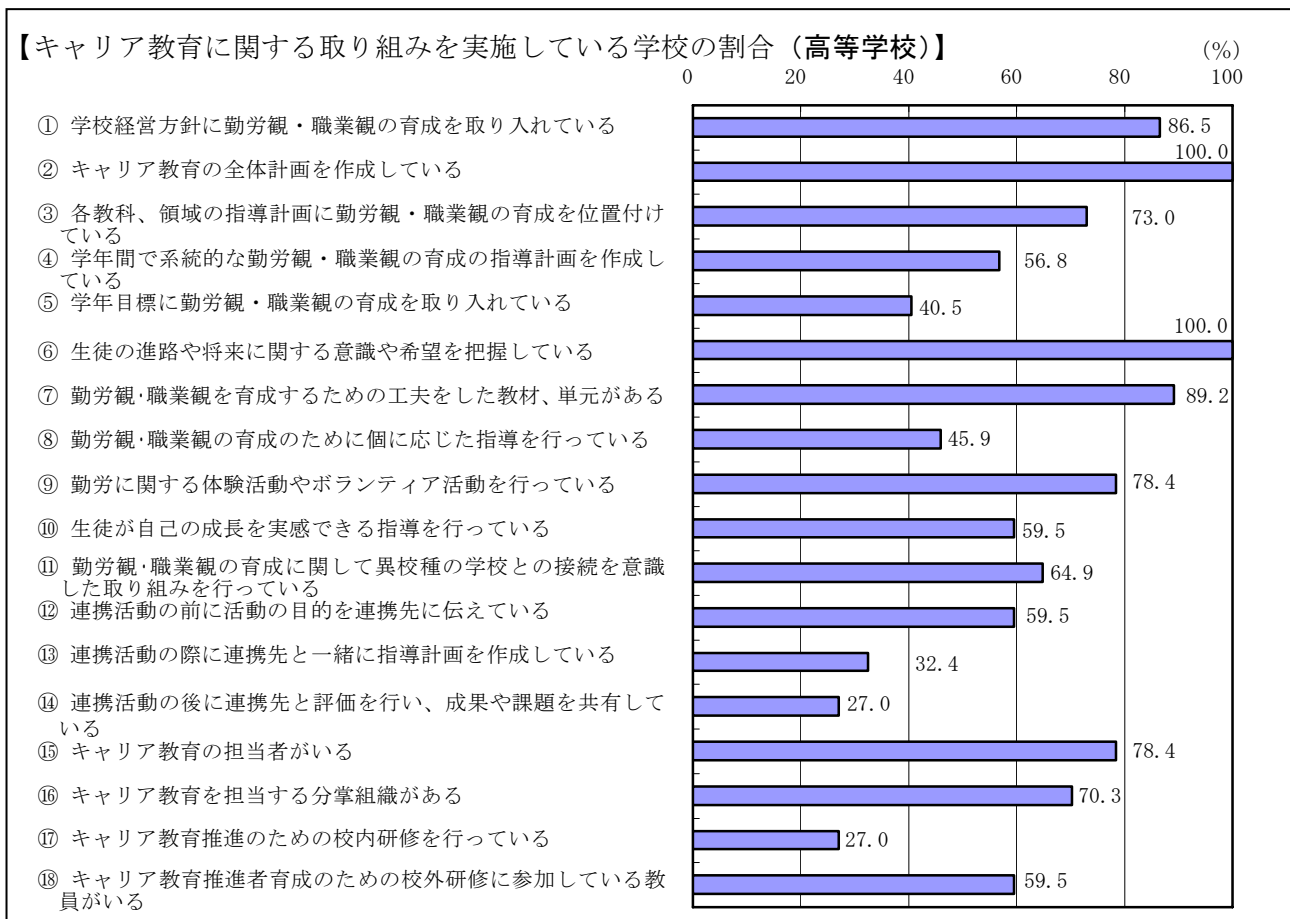


図6 キャリア教育に関する取り組みを実施している学校の割合（高等学校）

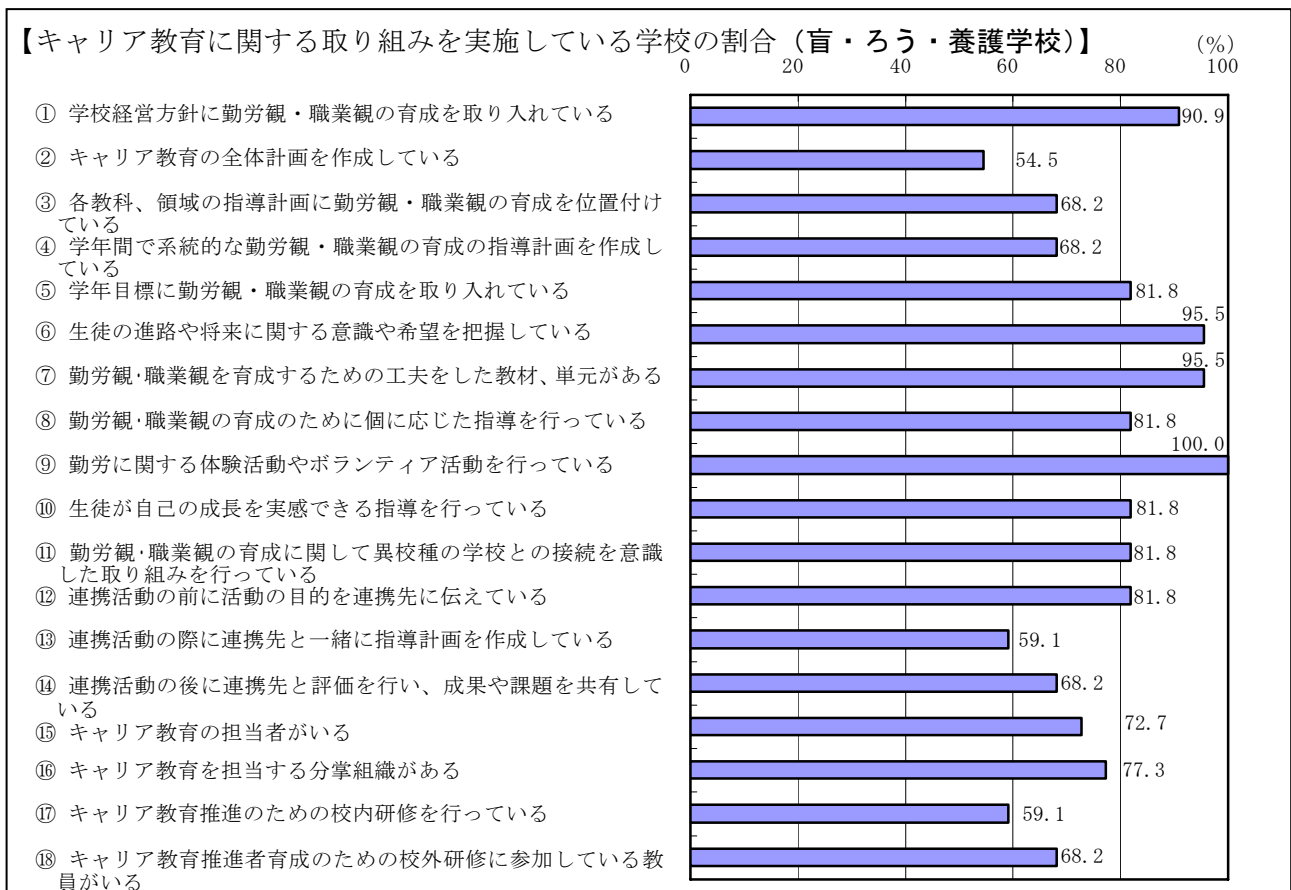


図7 キャリア教育に関する取り組みを実施している学校の割合（盲・ろう・養護学校）

3 調査に関する考察

(1) 小学校について

小学校においては、多くの学校で児童に自己の成長を実感させ、勤労観・職業観の育成を学校経営方針や各教科、領域の指導計画に位置付けているが、キャリア教育の全体計画の作成やキャリア教育に関する校内研修の実施、キャリア教育を担当する分掌組織の設置がなされている学校は約10%であった。

このことから、児童に自己の成長を実感させ、勤労観・職業観を育成する指導が行われているものの、キャリア教育の全体計画を作成するとともに、担当組織を明確にすることなどにより勤労観・職業観を計画的、組織的に育成することが大切であると考えられる。

(2) 中学校について

中学校においては、勤労観・職業観を育成するための体験活動が全校で実施され、多くの学校で学校経営方針に勤労観・職業観の育成を取り入れ、各教科、領域の指導で計画的に勤労観・職業観の育成が図られているが、連携活動の計画段階からの連携先との連携やキャリア教育に関する校内研修の実施は約10%、キャリア教育の全体計画を作成している学校は約30%であった。

このことから、キャリア教育の全体計画を作成するとともに、研修等を活用し、教職員がキャリア教育の在り方に関する理解を深めることで体験活動がより充実し、勤労観・職業観の育成が推進されることが考えられる。

(3) 高等学校について

高等学校においては、全校において生徒の進路や将来に関する意識や希望の把握、キャリア教育の全体計画の作成、キャリア教育の担当の明確化など、勤労観・職業観を育成するための組織的な指導が行われているが、キャリア教育に関する校内研修の実施や連携先との共同による連携活動の計画立案、検証を行っている学校は約30%であった。

このことから、勤労観・職業観を育成する取り組みが進路指導と関連させて組織的に行われている

ことが分かる。さらにキャリア教育に関する研修を充実させ、連携活動を連携先と協力して取り組むことで、将来の選択や生き方、勤労、職業について真摯に考える姿勢を身に付けさせることができると考えられる。

(4) 盲・ろう・養護学校について

盲・ろう・養護学校においては、すべての学校で、勤労に関する体験活動を行っている。また、ほとんどの学校で生徒の進路や将来に関する意識や希望の把握、学校経営方針への勤労観・職業観の育成の位置付け、指導の工夫、生徒の自己理解、個に応じた指導がなされている。しかし、キャリア教育の全体計画が作成されている学校は約 50%であった。

このことから、進路や将来の生き方を意識した指導が工夫され、児童・生徒一人一人に応じた指導がなされていることが分かる。さらにキャリア教育の全体計画を作成することで、児童・生徒一人一人のニーズに応じた将来の選択や生き方を実現するための指導が一層充実すると考えられる。

(5) キャリア教育の全体計画の作成状況について

キャリア教育の全体計画の作成状況は、高等学校ではすべての学校で作成しているが、小学校では 10.8%、中学校では 26.8%、盲・ろう・養護学校では 54.5%であった。

このことから、小学校、中学校、盲・ろう・養護学校においてキャリア教育の全体計画の必要性について全教員の共通理解を図り、全体計画を作成し、それに基づき勤労観・職業観の育成を組織的、系統的に実施する必要があると考えられる。

(6) キャリア教育に関する校内研修の実施状況について

キャリア教育に関する校内研修の実施状況は、小学校は 5.9%、中学校は 12.5%、高等学校は 27.0%、盲・ろう・養護学校は 59.1%であった。

このことから、キャリア教育に関する校内研修を充実させ、キャリア教育に対する教員の理解を深めることが必要であると考えられる。

IV 校内研修資料集「キャリア教育推進ショートプログラム」の開発

1 キャリア教育に関する校内研修に求められる配慮事項

キャリア教育に関する校内研修は、教員一人一人がキャリア教育の定義や内容、方法などに関する理解を深め、その必要性について共通理解することが求められる。

そこで、キャリア教育に関する校内研修資料集を開発するために、校内研修に求められる配慮事項を以下のように考えた。

- 校内研修を通して、キャリア教育の考え方や具体的な実践方法などが理解できること
- 校内研修の内容が、各学校の実態に応じたものであること
- 校内研修を短時間で行うことができること
- 校内研修が容易に企画・運営できること

2 校内研修資料集「キャリア教育推進ショートプログラム」の開発

校内研修資料集は、キャリア教育に関する校内研修を充実させることを目的に開発した。

校内研修資料集の開発にあたり、前述した校内研修の配慮事項を基に、学校におけるキャリア教育の在り方、キャリア教育に関する基本的な考え方や具体的な進め方をまとめた。

(1) 校内研修資料集開発の方向性

- キャリア教育に関する校内研修の充実に寄与する内容であること
- 教員が理解しやすいものであること
- 研修担当者が校内研修資料集を基に、実際に校内研修を行うことができること
- 全校種で用いることができ、学校ごとの状況や必要性に対応することができること
- 授業の進め方が具体的に例示されていること

(2) 特徴

① 作成方針

- 1つの項目について、10分程度で研修ができること
- 校内研修資料集は、キャリア教育を実践するために必要な内容が理解できること
- 学校の状況に応じて、必要な項目を選び、研修内容を組み立てることができること
- 研修担当者が容易に、目的にあった内容の研修を企画・運営できること
- 研修担当者が校内研修の具体的な進め方が分かること
- 特別な取り組みを新たに行うのではなく、現在の教育活動を基にキャリア教育を推進することができる実践の在り方を示すこと

② 構成

研修シートと手引き・解説で構成している。

【研修シート】

1枚の研修シートには、項目を1つ示し、そのことについて10分程度で研修できるように編集した。この研修シートは校内研修の際に印刷して、受講者に研修資料として配布するためのものである。

【手引き・解説】

時系列で研修内容を示した研修の進め方と、研修主題に関する参考知識をまとめた解説で構成した。研修担当者がこの部分を参考にすれば容易に研修主題を理解し、校内研修を企画し、運営できるようにした。

(3) 内容

① 研修シートの内容

研修シートは、大きく4テーマで構成されており、第一のテーマは「A キャリア教育の概要」、第二のテーマは「B キャリア教育の実践」、第三のテーマは「C 異校種・家庭・地域との連携」、第四のテーマは「D 活動の記録と評価」である。

各テーマにおける研修シートの内容は以下のとおりである。

○ 「A キャリア教育の概要」

このテーマの研修シートは、4項目で構成されており、キャリア教育の基本的な考え方を理解することをねらいとしている。その内容は以下のとおりである。

- ・ キャリア教育とはどのような教育であるのかを理解する。
- ・ キャリア教育を通して育てたい4能力を理解する。
- ・ 発達段階に応じた4能力の育成目標を検討する。
- ・ 家庭・地域・学校の役割と連携の在り方を理解する。

○ 「B キャリア教育の実践」

このテーマの研修シートは、7項目で構成されており、キャリア教育を計画的、系統的かつ組織的に実施するための指導計画の作成の仕方を理解するとともに、キャリア教育と関連を囚った授業を実践するためのポイントを検討することをねらいとしている。その内容は以下のとおりである。

- ・キャリア教育の指導計画の作成の視点と手順を理解する。
- ・キャリア教育の全体計画の作成の仕方を理解する。(A小学校の例)
- ・キャリア教育の学年別年間指導計画の作成の仕方を理解する。(A小学校4年生の例)
- ・キャリア教育と関連を図った授業のポイントを検討する。
 - 〔教科(国語科)の例〕
 - 〔道徳の例〕
 - 〔総合的な学習の時間の例〕
 - 〔特別活動(ホームルーム活動)の例〕

○「C 異校種・家庭・地域との連携」

このテーマの研修シートは、3項目で構成されており、異校種・家庭・地域と連携を図ってキャリア教育を進めるための在り方を検討することをねらいとしている。その内容は以下のとおりである。

- ・異校種との連携の在り方を検討する。
- ・家庭・保護者との連携活動を検討する。
- ・地域との連携の仕方を検討する。

○「D 活動の記録と評価」

このテーマの研修シートは、2項目で構成されており、児童・生徒に自己を見つめる力を育て、自己理解を深めさせるための指導の在り方を理解することをねらいとしている。その内容は以下のとおりである。

- ・活動記録を用いて、自己を見つめる力を育てるための指導の在り方を理解する。
- ・活動記録の活用の仕方を検討する。

② 研修の例

学校の状況に応じて、校内研修資料集から必要な研修シートを選択することで、学校のニーズにあった校内研修を行うことができる。

研修計画を研修担当者が容易に立案することができるよう、キャリア教育全体を理解するための研修や職場体験の進め方を理解するための研修など、キャリア教育を進めるための6つの校内研修を例示し、各々の研修において校内研修資料集をどのように活用して研修を立案するのかということについて具体的に示した。

③ 研修担当者が研修を企画・運営する際の留意事項

研修担当者が、研修を容易に企画・運営できるように研修の準備の段階から実施、評価の段階までの手順と留意点を流れ図でまとめた。

④ キャリア教育に対する評価

1年間のキャリア教育に対する取り組みを教員自身が自己評価し、次年度改善を図るための評価シートを作成した。

(4) 校内研修資料集「キャリア教育推進ショートプログラム」

校内研修資料集の中から、「キャリア教育推進ショートプログラムを使った校内研修の進め方と校内研修の例」、一部の研修シートと手引き・解説等を抜粋し、18ページから24ページに掲載する。

掲載する内容は、以下のとおりである。

- 研修資料集の内容
- キャリア教育推進ショートプログラムを使った校内研修の進め方と校内研修の例
- 研修シート及び手引き・解説
 - ・A-1 キャリア教育とは何かについて
 - ・B-4 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて～教科（国語科）の例～
- 今年度のキャリア教育の実施状況に関するチェックシート

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

(1) 都内公立学校におけるキャリア教育の実施状況に関する校種別実態の把握

都内公立学校におけるキャリア教育の実施状況に関する実態調査を行い、小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校におけるキャリア教育の実施状況を把握した。

このことから、キャリア教育の全体計画を作成し、それに基づき、計画的、系統的かつ組織的にキャリア教育を実施するための方法等を提言する必要があることが明らかになった。

また、児童・生徒の発達段階に応じて計画的、系統的かつ組織的にキャリア教育を行っていくためには、その在り方に関する教員の理解を深める研修を充実させるための方策が必要であることが明らかになった。

(2) 校内研修資料集「キャリア教育推進ショートプログラム」の開発

① キャリア教育に関する教員の理解の促進と組織的なキャリア教育の充実、推進

キャリア教育の基本的な考え方や組織的に児童・生徒の発達段階に応じたキャリア教育を計画的、系統的に進めるためのキャリア教育の具体的な実践方法をまとめた校内研修資料集を開発した。これにより、キャリア教育に関する校内研修が充実し、教員一人一人のキャリア教育に関する理解が深まると同時にキャリア教育の必要性について教員全体に共通理解が図られ、組織的、計画的なキャリア教育が充実し、推進される。

② 学校の状況に応じた校内研修の実施

校内研修資料集は、キャリア教育の基本的な考え方や具体的な実践方法を理解するための複数の研修シートから構成されているので、学校の状況に応じて必要な研修テーマを選択することができ、学校それぞれのニーズに応じた校内研修を実施することができる。

③ キャリア教育に関する校内研修の充実

校内研修資料集を次のように工夫し、校内研修資料集の活用の仕方を示したことで、研修担当者が容易に校内研修を企画・運営することができ、キャリア教育に関する校内研修の充実に資することができる。

- ・1つの研修主題について10分程度で校内研修を行うことができる。
- ・受講者への配布資料となる研修シートと研修担当者の参考資料である手引き・解説から構成されている。
- ・校内研修の進め方や校内研修の例など、本校内研修資料集の活用の仕方を示している。
- ・1つの研修主題に関する参考知識を解説としてまとめている。

2 今後の課題

(1) 児童・生徒一人一人に応じたキャリア発達の適切な評価と支援の在り方

キャリア教育を行うにあたっては、児童・生徒一人一人のキャリア発達に応じた指導を行うために児童・生徒一人一人のキャリア発達の程度を的確に把握し、適切な支援を行わなくてはならない。そのための評価と支援の在り方に関する研究を今後、深める必要がある。

(2) 小学校から高等学校までの継続した指導のための体制

児童・生徒に望ましい勤労観・職業観をはぐくみ、社会人・職業人として自立できる意欲・能力・態度を身に付けさせるためには、小学校から高等学校まで継続した指導が必要である。そのために各校種間で継続した指導の体制づくりに関する研究をさらに進める必要がある。

《参考・引用資料》

- ・初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申） 平成 11 年 12 月 中央教育審議会
- ・児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書） 平成 14 年 11 月 国立教育政策研究所生徒指導センター
- ・小学校学習指導要領 平成 10 年 12 月告示 平成 15 年 12 月一部改正 文部科学省
- ・中学校学習指導要領 平成 10 年 12 月告示 平成 15 年 12 月一部改正 文部科学省
- ・高等学校学習指導要領 平成 11 年 3 月告示 平成 14 年 5 月一部改正 平成 15 年 4 月一部改正 平成 15 年 12 月一部改正 文部科学省
- ・盲学校、聾学校及び養護学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領 平成 11 年 3 月告示 平成 15 年 12 月一部改正 文部科学省
- ・子供たちの豊かな人間関係を育てるために 東京都教育庁指導部指導企画課 平成 6 年 3 月
- ・キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成 16 年 1 月 文部科学省
- ・キャリア教育の推進に向けて 平成 17 年 5 月 文部科学省
- ・望ましい勤労観・職業観の育成 平成 16 年 3 月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課
- ・望ましい勤労観・職業観の育成Ⅱ 平成 17 年 3 月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課
- ・望ましい勤労観・職業観の育成Ⅲ 平成 18 年 3 月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課
- ・わく(Work)わく(Work) Week Tokyo 平成 17 年度 中学生の職場体験報告書 平成 18 年 3 月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課
- ・平成 17 年度高等学校教育指導課ブックレット VOL. 1 キャリア教育の全体計画表の作成と活用 平成 17 年 8 月 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
- ・平成 17 年度キャリア教育推進地域指定事業 実践協力校中間報告書 平成 18 年 3 月 東京都教育庁指導部

キャリア教育理解推進のための校内研修資料集 キャリア教育推進ショートプログラム

研修資料集の内容

- キャリア教育推進ショートプログラムを使った校内研修の進め方と校内研修の例
- 研修シート及び手引き・解説

A キャリア教育の概要

- A-1 キャリア教育とは何かについて
- A-2 キャリア教育を通して育てたい4能力について
- A-3 キャリア教育で育成する4能力の育成目標について
- A-4 家庭・地域・学校の役割の理解と連携の在り方について

◇本資料は、キャリア教育推進ショートプログラムより一部抜粋

◇キャリア教育推進ショートプログラムは東京都教職員研修センターホームページに掲載

B キャリア教育の実践

| | | |
|--------|-----|--|
| 計 画 | B-1 | キャリア教育の指導計画作成の視点と手順について |
| | B-2 | キャリア教育の全体計画作成の仕方について ～A小学校の例～ |
| | B-3 | キャリア教育の学年別年間指導計画作成の仕方について ～A小学校第4学年の例～ |
| 実 践 | B-4 | キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～教科（国語科）の例～ |
| | B-5 | キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～道徳の例～ |
| | B-6 | キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～総合的な学習の時間の例～ |
| | B-7 | キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～特別活動（ホームルーム活動）の例～ |

C 異校種・家庭・地域との連携

- C-1 異校種との連携の在り方について
- C-2 家庭・保護者との連携活動について
- C-3 地域との連携の仕方について

D 活動の記録と評価

- D-1 自己を見つめる力を育てるための指導の在り方について ～活動記録を用いて～
- D-2 活動記録の活用の仕方について

- 今年度のキャリア教育の実施状況に関するチェックシート
- 参考・引用資料

研修シート
全 16 枚

1枚につき1項目で、10分程度で研修が行えます。

このシートを印刷して研修で活用してください。

手引き・解説
全 16 枚

研修担当者の資料として利用してください。

必要とする項目やその組み合わせで校内研修が行えます。

キャリア教育推進ショートプログラムを使った校内研修の進め方と校内研修の例

全校種で共通して活用できる事例を次のとおり示した。実際に校内研修を行う場合は、以下のようにA-1～D-2の研修シートの中から研修の目的に合わせて必要な研修シートを選択し、それらを組み合わせて実施する。

キャリア教育全体について研修する場合

- ・目的 キャリア教育の全体を理解する。
- ・研修担当 教務主任または研究主任
- ・時間 1回10分程度
- ・回数 16回
- ・時期 職員会議後、年間を通して
- ・使用するシート 全16枚

研修シート
全16枚

キャリア教育の全体計画の作成の仕方を研修する場合

- ・目的 キャリア教育の全体計画作成の方法・手順等を理解する。
- ・研修担当 教務主任
- ・時間 40分程度
- ・回数 1回
- ・時期 4月
- ・使用するシート 4枚

A-1

A-3

B-1

B-2

キャリア教育の考え方を研修する場合

- ・目的 望ましい勤労観・職業観の育成を学校全体で図るためにその考え方を共通理解する。
- ・研修担当 教務主任または研究主任
- ・時間 1回10分程度
- ・回数 4回
- ・時期 職員会議後
- ・使用するシート 4枚

A-1

A-2

A-3

A-4

職場体験の進め方を研修する場合

- ・目的 職場体験の進め方を理解する。
- ・研修担当 進路指導主任
- ・時間 30分程度
- ・回数 1回
- ・時期 4月
- ・使用するシート 3枚

A-4

B-6

C-3

保護者にキャリア教育への協力を求める場合

- ・目的 保護者会において、保護者に伝える内容を検討する。
- ・研修担当 学年主任
- ・時間 20分程度
- ・回数 1回
- ・時期 保護者会の前
- ・使用するシート 2枚

A-4

C-2

児童・生徒の自己理解を深める場合

- ・目的 自己を見つめ、自己理解を深めるための指導と支援の在り方を理解する。
- ・研修担当 学年主任
- ・時間 1回20分程度
- ・回数 2回
- ・時期 4月と1月
- ・使用するシート 4月2枚
1月3枚

4月

A-3

D-1

1月

A-3

D-1

D-2

研修担当者が企画・運営する際の留意事項

研修の目的を考える

学校の実態を踏まえて、目的を設定する。

目的に合った内容を考えて、計画する

目的に応じて、必要な研修シートを選択し、実施時期や方法等を企画・立案する。

研修の内容を理解する

必要な手引き・解説の解説を読み、研修の実施内容を確認する。

研修の進め方を考える

手引き・解説の進め方を読み、研修の進行を確認する。

研修会の準備

利用する研修シート等を準備する。

実施

研修内容や方法、実施時期などを検証する。

評価

A-1 キャリア教育とは何かについて

【研修のねらい】 キャリア教育とはどのような教育であるかを理解する。

☆ キャリア教育とは

○「児童・生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえ、端的には、「児童・生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育」とする。

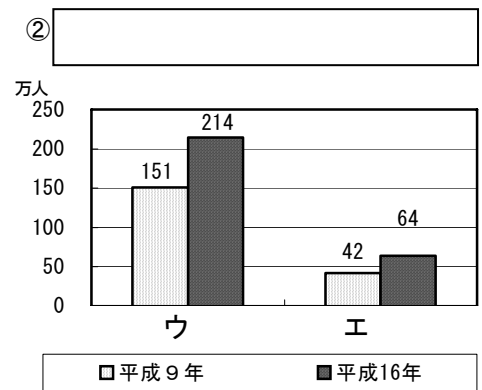
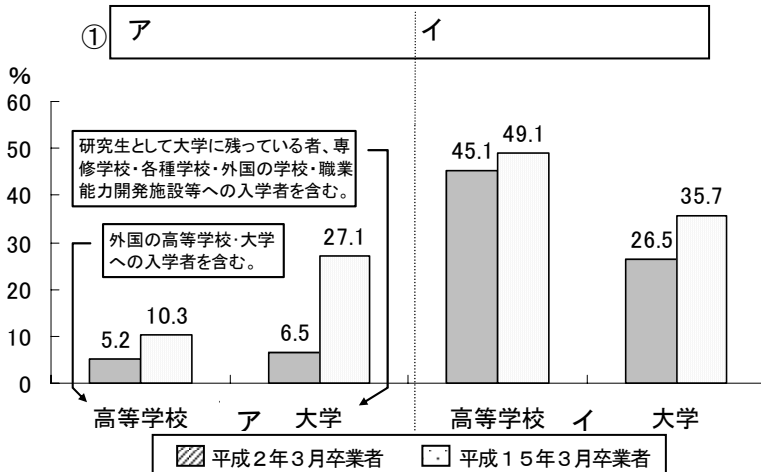
○望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる教育である。

○児童・生徒一人一人の進路選択に関する資質や能力の発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリア（生涯にわたって遂行する立場や役割）を形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育である。

（キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省）

（望ましい勤労観・職業観の育成 平成16年3月 東京都教育庁指導部義務教育心身障害教育指導課）

☆ キャリア教育が求められる背景 「学校から社会への移行をめぐる現状」

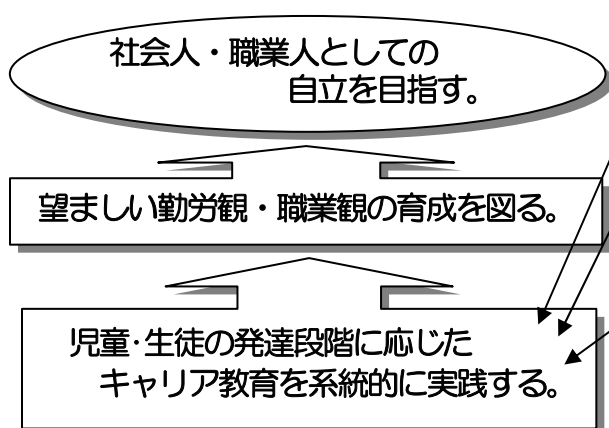


（注1：エとは15歳から34歳の家事も通学もしていない者）
（平成18年版労働経済の分析 平成18年 厚生労働省より）

（キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省）

（新規学校卒業者の就職離職状況調査 平成17年 厚生労働省より）

☆ キャリア教育のねらい



☆ キャリア教育の意義

学校における教育活動の見直しや授業の工夫、改善に結び付くこと

従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すもの

各領域の関連する諸活動を体系化し計画的、組織的に実施できるように、各学校が教育課程編成の在り方を見直していくこと

キャリアが児童・生徒の発達段階や発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、児童・生徒の全人的な成長・発達を促す視点に立った取組を積極的に進めること

（キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省）

A-1 キャリア教育とは何かについて

1 研修の進め方

| 時間(分) | 研修内容 | 研修担当者の活動 | 研修実施上の留意点 |
|-----------------|--|---|--|
| 0—1—2—3— | ①研修のねらい等の理解 ②キャリア教育の内容や求められる背景の理解 ・四角の空欄に記入する。 | ①研修のねらい、内容等を説明し、研修シートA-1を受講者に配布する。 ②キャリア教育について、文部科学省及び東京都教育委員会が示している「キャリア教育とは」の内容を説明し、キャリア教育の理解を深めるため、次の内容を四角の空欄に記入してもらう。 | ①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておく。 ②【共通理解を図る内容】 ・キャリア教育では、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の4能力を育成することが大切であること。この内容は、次回以降、具体的に研修することを伝える。 |
| 3— | キャリア教育とは、児童・生徒一人一人に望ましい勤労観・職業観を はぐくむために、人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、 意思決定能力を身に付けさせる教育活動である。 | | ③【グラフから読みとれるキャリア教育が求められる背景】 ・無業者や早期離職者、フリーターの増加などから職業人としての基本的な資質や能力の低下が指摘されていること ・原因として、次のことが考えられること ア 経済情勢や産業・経済及び雇用の構造の変化 イ 働くことへの意欲・関心の低下 ウ 若者の意識や資質の変化 等 |
| 4—5—6—7—8—9—10— | ③キャリア教育が求められる背景等の理解 ・グラフから何を表しているかを読み取る。 ④キャリア教育のねらいや意義の理解 ⑤質疑応答 ⑥終了 | ③「①と②のグラフは、何を表しているものか」と問い掛け、考えてもらう。 【グラフの表すもの】 ①のグラフ：ア 卒業後、進学も就職もしていない者の割合 イ 卒業後3年後の離職率 ②のグラフ：フリーター数・ニート数の推移 ウ フリーター エ ニート ④研修のまとめとして、以下を説明して、共通理解を図る。 ・キャリア教育のねらいは、望ましい勤労観・職業観を育成し、将来、社会人としての自立を促すこと ・意義は、教育活動全体を見直し、授業の工夫・改善に結び付くこと ⑤不明な点や質問を受ける。 | ④【共通理解を図る内容】 〈ねらい〉社会人・職業人として自立することを目指し、小学校段階から勤労観・職業観を育成する。 〈意義としておさえておきたい内容〉 ・個に応じた支援等、従来の教育の在り方を見直す。 ・発達段階に応じて、全人的な成長・発達を促す。 ・各領域の関連を図り、計画的・組織的に実施する。 ⑤【想定質問及び回答例】 Q1 進路指導との違いは何か。 A1 社会人・職業人として必要な能力・態度を育成することである。 Q2 授業の工夫・改善とはどのようなことか。 A2 キャリア教育が目指す4能力の育成という視点からは、生きる力や確かな学力と関連があることから、授業改善に結び付くと考えられる。 |

2 解説Q&A

- Q1 「キャリア」、「勤労観」、「職業観」という言葉はどのような意味か。
- A ○「キャリア」とは、個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積である。(キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 平成16年1月 文部科学省より)
- 「勤労観」とは、勤労に対する価値的な理解・認識である。職業としての仕事や勤めだけでなく、ボランティア活動、家事や手伝い、その他の役割の遂行などを含む、働くことそのものに対する個人の見方や考え方、価値観であり、個人が働くこととどのように向き合っていくかという姿勢や構えを規定する基準となるものである。
(児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について〔調査研究報告書〕平成14年11月 国立教育政策研究所生徒指導センターより)
- 「職業観」とは、人それぞれの職業に対する価値的な理解であり、人が生きていく上での職業の果たす意義や役割についての認識である。「職業観」は、人が職業を通して職業を通じての生き方を選択するに当たっての基準となり、また、選択した職業によりよく適応するための基盤ともなるべきものである。(文部省進路指導資料 平成4年 文部省より)
- Q2 望ましい「勤労観・職業観」とはどのようなものか。
- A ○理解・認識面 ①職業には貴賤がないこと
②職務遂行には規範の遵守や責任が伴うこと
③どのような職業であれ、職業には生計を維持するだけではなく、それを通して自己の能力・適性を発揮し、社会の一員としての役割を果たすという義務があること
- 情意・態度面 ①一人一人が自己及びその個性をかけがえのない価値あるものであるとする自覚
②自己と働くこと及びその関係についての総合的な検討を通じた職業・勤労に対する自分なりの構え
③将来の夢や希望の実現を目指して取り組もうとする意欲的な態度
(児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について〔調査研究報告書〕平成14年11月 国立教育政策研究所生徒指導センターより)
- Q3 キャリア教育を推進するためにどのような条件整備が必要か。
- A ○教員の資質向上を図り、専門的能力を有する教員を養成する。
○保護者との連携を推進する。
○学校外の教育資源を活用するためのシステムづくりをする。
○地域社会・関係機関・企業等との連携を進め、社会全体で取り組むキャリア教育への理解を促進する。

B-4 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～教科(国語科)の例～

【研修のねらい】キャリア教育と関連を図った教科の授業の進め方のポイントを検討する。

キャリア教育と関連を図った授業のポイント

- 教科の目標に沿った授業展開の中で、育成できる4能力を明確にし、4能力の育成を図ることができる活動・支援・評価を取り入れる。
- 自己を振り返り、活動記録に記入する活動を取り入れる。

小学校第2学年 国語科学習指導計画

- 1 単元名 夏休みの思い出を発表しよう（話すこと・聞くこと）
- 2 単元の目標
 - ・夏休みに経験したことについて、順序を考えながら話すことができる。
 - ・大事なことを落とさないように友達の発表を聞くことができる。
- 3 単元指導計画（全3時間）

育成する能力

- ・人間関係形成能力
- ・情報活用能力

| 時 | 主な学習活動 | ●支援 ☆評価 | | | | |
|---|--|---|----|---|--|--|
| 第一時 | ○単元の目標を確認する。 ○学習の見通しをもつ。 [夏休みの思い出を発表しよう] ○発表する話題を考える。 ○自分の話したい話題を決める。 (例) 夏休みにあさがおの花が咲いてうれしかったこと ○話す内容をカードに書く。 (例) ・水やりのこと ・台風のこと ・つぼみのこと ・花が咲いたこと | ●単元の目標をとらえやすくするために、掲示物などを活用しながら児童に分かる言葉で目標を示す。 (例) 「夏休みのことについて、 <u>順序を考えて発表したり友達の発表を大事なことを落とさないで聞いたりしていきましょう。</u> 」 ●楽しかったこと、見付けたこと、がんばったことなど、具体的な例を紹介する。 ●内容が相手によく分かるように、話題に関する物や写真などをもってきてよいことを伝える。 ☆話したい事柄を選ぶことができる。 | | | | |
| 第二時 | ○よい話し方、聞き方について考える。 (話す・聞くときに気を付けること) <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">話す</th> <th style="width: 50%;">聞く</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ○相手を見ながらゆっくり最後まで話す ○発音に注意してはっきりと話す ○絵や物を使ったり動作を付けたりして話す ○順序を表す言葉を使う など </td> <td> ○相手を見ながら話を最後まで聞く ○反応しながら聞く(うなずきなど) ○順序を表す言葉や文末表現に気を付けて聞くなど </td> </tr> </tbody> </table> | 話す | 聞く | ○相手を見ながらゆっくり最後まで話す ○発音に注意してはっきりと話す ○絵や物を使ったり動作を付けたりして話す ○順序を表す言葉を使う など | ○相手を見ながら話を最後まで聞く ○反応しながら聞く(うなずきなど) ○順序を表す言葉や文末表現に気を付けて聞くなど | ●話す・聞くときに気を付けることを模造紙などで示す。 ●教員が上記の例を参考に見本を示す。 ● <u>よかったところを相手に伝え、分からないことを質問するように助言する。</u> ☆順序を考えて話している。 ☆分からないことは質問している。 |
| 話す | 聞く | | | | | |
| ○相手を見ながらゆっくり最後まで話す ○発音に注意してはっきりと話す ○絵や物を使ったり動作を付けたりして話す ○順序を表す言葉を使う など | ○相手を見ながら話を最後まで聞く ○反応しながら聞く(うなずきなど) ○順序を表す言葉や文末表現に気を付けて聞くなど | | | | | |
| 第三時 | ○話し方、聞き方を確認する。 ○話す内容を確認する。 ○グループで発表会を行う。 ○クラス全体でよかったことを発表し合う。 ○学習を振り返り、自己評価を行う。 | ● <u>前時で学習したことを踏まえ、順序を表す言葉を使うこと、反応しながら聞くことなどを指導する。</u> ☆順序を考えて相手に分かるように話している。 ☆大事なことを落とさないように聞き、分からないことを質問している。 ●学習内容を振り返り、具体的に活動記録に記入できるように書き方の例を示す。 | | | | |

本単元において キャリア教育と 関連を図るための ポイント

人間関係形成能力

人間関係はお互いの考えを伝え合うことから始まり、国語科で育成する話す力、聞く力は人間関係形成能力を高める基礎となる。

情報活用能力

相手の話の大事なことを聞き取り、分からないことは質問する経験を繰り返すことが、情報活用能力の育成につながる。

人間関係形成能力

聞き手を意識して話したり、話し手を見て聞いたりするような場を設定し、継続して取り組むことが大切である。

B-4 キャリア教育と関連を図った授業のポイントについて ～教科(国語科)の例～

1 研修の進め方

| 時間(分) | 研修内容 | 研修担当者の活動 | 研修実施上の留意点 |
|-------|---|---|--|
| 0 | ①研修のねらい等の理解 | ①研修のねらい、内容を説明し、研修シートB-4を受講者に配布する。 | ①研修担当者は、事前に解説Q&Aを読み、言葉の意味等を把握しておくとともに、グループでの話し合いに重点をおくようにする。 |
| 1 | ②キャリア教育と関連を図った教科の授業を行う上でのポイントの理解 | ②キャリア教育と関連を図った教科の授業を行う上でのポイントについて研修シートを基に、次の内容を説明する。 ・「夏休みの思い出を発表する」は、人間関係形成能力として、国語科の「話すこと、聞くこと」に関連させて、育成することができること ・「よかったところを相手に伝え、分からないことを質問する」という助言は、情報活用能力の育成に結び付き、指導法の工夫・改善点となること | ②【共通理解を図る内容】 ・教科等の目標達成を図る上で、学習活動における指導内容・方法・評価等が、キャリア教育で育成する4能力に結び付くという考え方 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | ③普段の授業における指導内容・方法とキャリア教育との関連や可能性についてのグループでの話し合い | ③グループでの話し合いを行うにあたり、次の内容を伝える。 ア 目的は、普段の授業を振り返り、キャリア教育との関連を図った指導内容や方法を見いだすことである。 イ 方法は、普段の授業を想定して、キャリア教育で育てる4能力の育成と関連のある指導内容・方法等について、2～4人の少人数で話し合う。 | ③【共通理解を図る内容】 ・普段行っている授業方法の工夫に着目し、調べ学習では、情報活用能力、発表形式の授業は、人間関係形成能力、問題解決学習は、意思決定能力等の育成に結び付くこと ・キャリア教育との関連を見いだすことにより、確かな学力の向上に結び付く指導内容・方法の工夫や授業改善となること |
| 5 | | | |
| 6 | ④検討内容の発表 | ④検討した指導内容や方法等について、数人に発表してもらう。 | 【留意点】 ・グループでの話し合いの内容を深めるため、研修担当者は、解説Q&Aを参考に、キャリア教育と関連する授業方法等を情報提供する。 |
| 7 | | | ④発表は、研修の時間に合わせて行う。また、時間があれば質疑応答を行う。 |
| 8 | ⑤終了 | | 【想定問答】 Q1 国語科の授業のほかにも、どのような教科で人間関係形成能力を育成することができるか。 A1 どの教科においても、話し合いをしたり、自分の考えを相手に分かりやすく説明したりすることで育成できる。 |
| 9 | | | |
| 10 | | | |

2 解説Q&A

- Q1 キャリア教育の目標とキャリア教育で育てる4能力との関連を見いだしてどのように授業を行うことができるのか。
A キャリア教育と学習内容との関連は教科によって異なる。教科や単元によって、重点的に育てやすい能力がある。例えば、国語科における人間関係形成能力、社会科における情報活用能力などのように、考えやすいところから始めるとよい。
- Q2 キャリア教育の核となる主な教育活動はどのようなものか。
A ○学級や学年の友達、異学年集団、地域の人など、多様な人々とのかかわりを重視した活動
○ものづくり、職場体験、インターンシップ、ボランティア活動などの体験活動
○異校種、家庭、地域、関係機関等との連携による活動
○学習のまとめとして、児童・生徒が学習成果を振り返り、次へのめあてをもつ活動
○進路指導など、将来の人生を考える活動 など
- Q3 研修シートの例のほかにも、どのような授業ができるか。(小学校の例)
A 例1 「大きくなった自分を考える」(生活科)〈人間関係形成能力の育成〉
例2 「わたしたちの地域の商店について調べる」(社会科)〈情報活用能力の育成〉
例3 「表やグラフを活用する」(算数科)〈情報活用能力の育成〉
例4 「家族との生活について考える」(家庭科)〈将来設計能力の育成〉
例5 「実験の計画をたてる」(理科)〈意思決定能力の育成〉 など

今年度のキャリア教育の実施状況に関するチェックシート

氏名 ()

年度末にキャリア教育に関する研修を実践に活かすことができたかどうかを確認し、来年度への課題を検討してください。

◇1年間を振り返り、あてはまると思う番号に○を付けてください。

| 項 | | 目 |
|-------------------|--|--|
| ●キャリア教育に関する研修について | | |
| 1 | | キャリア教育について理解が深まった。 |
| 2 | | キャリア発達と発達課題について理解が深まった。 |
| 3 | | 発達段階に応じた4能力の育成目標について理解が深まった。 |
| 4 | | キャリア教育では、家庭・地域・学校が連携して行うことが大切であることを理解できた。 |
| 5 | | キャリア教育の指導計画作成の手順について理解が深まった。 |
| ●キャリア教育の実践結果について | | |
| 6 | | キャリア教育の視点で授業を行った。 |
| 7 | | 異校種と連携してキャリア教育を行った。 |
| 8 | | 家庭と連携してキャリア教育を行った。 |
| 9 | | 地域と連携してキャリア教育を行った。 |
| 10 | | キャリア教育の全体計画や年間指導計画の作成に参画した。 |
| 11 | | 活動記録を活用して自己を見付ける力を育てることができた。 |
| 12 | | 活動記録を個への指導に活用した。 |
| 13 | | キャリアカウンセリング（児童・生徒が自ら進路を選択できるような個別の支援）を行った。 |

◇来年度への課題